

対象案件	北広島市立小学校及び中学校の適正規模に関する基本方針(案)について
意見募集期間	令和2年1月15日(水)から令和2年2月17日(月)まで
担当部署(問合せ先)	教育部 小中一貫・教育施策推進課 電話 011-372-3311 内 4832
意見提出件数	意見提出者数 1人
	意見提出件数 1件

提出のあった意見の概要	市の考え方 (案を修正したときは修正内容)
<p>学校全体、というよりも1学年の学級数という視点で、私見を述べさせていただきます。</p> <p>結論から申し上げますと2学級以上が望ましいです。つまり、小学校では12学級以上。中学校では6学級以上となります。1学年1学級での良さもあるのですが、私の経験上、2学級以上の方が子どもたちにとってのメリットが多いと感じています。</p> <p>ただし、学級数が多ければ良いのか、といえばそういうわけでもないとも考えています。1学級の人数は20人程度が望ましいです。私自身の経験からもそう断言できますし、海外の研究ではエビデンスのあるクラス編成でもあります。教師の目がよく行き届き、多すぎず少なすぎない人数です。1学級の子どもの人数が少ないということは、教師の業務という視点においてもメリットが多いのは間違いありません。</p> <p>また、これが実現されれば子どもの人</p>	<p>本市におきましても、1学年あたり複数学級以上が望ましいという観点から、小学校については1学年2学級から3学級(1学校あたり12学級から18学級)、中学校については1学年2学級から6学級(1学校あたり6学級から18学級)ということで、適正規模の基本方針(案)を策定させていただいたところです。</p> <p>1学級あたりの人数につきましては、教育機会の均等や教育水準の確保等の関係から、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律及び北海道が定める学級編制基準を原則としているところであり、この基準等の中で必要に応じて少人数指導を実施するなど、児童生徒の実態に応じて工夫しているところです。</p> <p>恒常的な少人数学級についてのご意見等につきましては、参考にさせていただきたいと考えています。</p>

数が少なくなってしまった学校でも2学級を維持することができますし、閉校や統合という選択もなくなります。地域に住む子どもたちにしてみれば有難いことでしょう。

仮に人数が少なく、学級数が増えることとなった場合、現状では教員不足が懸念されます。これは全国的に問題となっていることであり、早急に解決しなくてはならないものであると考えます。そこで私からは小学校での副担任制を提案させていただきます。

○2～3学級に所属する副担任を臨時採用。

○校務や授業といった業務の分担や若手教員の指導（初任者研修兼ねも可）にあたる。

○子育て世代の正採用教員のサポートも充実させることができる。

○フルタイムではなくハーフでの採用とすることで、子育てなどの理由で退職した元教員を引き込むことができる。予算もフル採用と比べると少なくて済む。

○若くして退職してしまった教員再雇用の場となる（前述した内容とは反するが）

ハーフ勤務の副担任を採用することで正採用教諭のサポートも充実させることができ、業務過多による教員流出にも歯止めをかけられる可能性があると考えますが、いかがでしょう。

学級数一つを考えるのではなく、他

の視点からも適正な学級数、子どもたちの学ぶ環境づくりについてアプローチすべきと考え、ここまで述べさせていただきました。限られた予算の中、より良い学校創りを進められる皆さんにとって少しでも参考になれば幸いです。